

地域再生デザイン研究

研究代表者 古谷 誠章
(創造理工学部・建築学科・教授)

1. 研究課題

近年、日本の社会では、産業構造の変化、少子高齢化の進展、人口移動による地域社会の高齢化等の社会経済情勢の変化に従う地域社会構造の変化が見られる。2009年、本研究室で行った都市再生プロジェクト推進調査の対象である島根県、雲南市は、人口減少により6町村の合併により誕生した市である。雲南市、特に市の周辺部となる地域では、地域社会構造の変化により官庁舎や公立学校舎など遊休公有施設が多く生じている。また市内全域で、公有施設の利用率の低下も問題になっている。このような住民の生活から分離していく地域環境の変化は地域社会の沈滞や住民の居住環境の悪化につながる。また、地域社会構造変化と共に計画される新たな施設は既存の施設との関係を持たないまま建設され、既存施設が立地する地域の孤立、機能の重複による資源浪費による環境問題も考えられる。

これらについては旧町村界を超えた広域的な地域づくりの推進、住民の生活構築の観点から当初の公有施設の目的を見直しながら地域住民のニーズを踏まえた効果的な用途転換及び活用する観点からとらえた具体的設計指針の改革が不可欠となっている。

本研究では、今後のこの問題に意欲的に取り組もうとする地方都市からの委託により、具体的な実践を伴いながら、社会経済情勢の変化と共に地域がもっている価値を見直しながら住民の生活が続けることが可能な地域再生デザイン手法の模索と提案を行う。

2. 主な研究成果

- 2-1. 新潟県上越市月影小学校 / 千葉県鋸南町 保田小学校における廃校リノベーションの研究提案
- 2-2. 島根県雲南市 中山間地域での地域と大学生等による交流ゾーン形成事業
- 2-3. 奈良県 吉野材(スギ・ヒノキ)を活かした木質空間デザインの提案
- 2-4. 岐阜県美濃加茂市 旧伊深村役場庁舎を核とした地域づくり業務

2-1. 新潟県上越市月影小学校/千葉県鋸南町保田小学校における廃校リノベーションの研究提案

月影プロジェクトは2019年度で15年目を迎えた。地域再生のために「宿泊体験交流施設/月影の郷」における継続的な関わりと周辺地域・学生を巻き込んだ活動を目指した。

今後 20 年目に向けて地域とのつながりを持った活動をより一層行うとともに、月影の郷自体の細かな部分の改修を行い宿泊体験交流施設としての価値を高めていくことを目指した。

鋸南プロジェクトは 2019 年度で 7 年目を迎えた。廃校になった旧保田小学校は改修され、2015 年 12 月に、「都市交流施設・道の駅保田小学校」として開業した。2019 年度は鋸南町都市交流施設周辺整備基本計画策定業務委託プロポーザルが実施され選定された事業者とともに保田小学校駐車場および鋸南幼稚園の利活用の提案を行なっていくことが決定した。

2-1-1 月影プロジェクト

「竹灯籠まつり」への参加

例年 2 月に開催されている「かまくら交流フェスタ」であるが、今年度は積雪がなかったためかまくらを作成せず、竹灯籠を設置してかまくら雪明かりの代わりとしてイベントを行った。また、翌日には、昨年度より始まった「さんばいし（米俵のフタ）投げ」から着想を得た的当てゲームも行われた。イベントには地元の小中学生だけでなく東京柴又からの移住体験ツアーに来た子供たちも参加し、二地域の人々の交流を生むイベントとなった。今後月影の郷を介して複数の地域が交流を行い地域活性化のきっかけとなることを願う。



fig.1 細竹を利用した竹灯籠



fig.2 子供達の参加するイベントの様子

2-1-2. 鋸南プロジェクト

域学連携プロジェクト

今年度は鋸南町都市交流施設周辺整備基本計画策定業務委託プロポーザルが実施された。プロポーザルにて選定された事業者とは保田小学校駐車場の新設と昨年度廃園となった鋸南幼稚園を活用した保田小学校拡張計画についての議論を行い、今後は町民の方々との意見交換会などを実施し基本計画、基本設計、実施設計と進んでいくことが決定した。それに伴い域学連携としては前年度より行なっていた①元名採石場 ②鋸南幼稚園 ③保田小駐車場 ④佐久間小学校 ⑤佐久間ダム湖の 5 つの拠点における利活用提案及び調査を引き続き行い、それらを考慮に入れた保田小学校駐車場および鋸南幼稚園活用の提案を作成した。

今年度は 9 月に発生し千葉県一帯を襲った台風 15 号により鋸南町も多大な被害を受け、多くの民家や役場をはじめとした公共施設、保田小学校の体育館をリノベーションした産直市場までもが被災した。2020 年 3 月現在でもいまだに屋根をブルーシートで覆った家が目立ち、復興が終わるまで

は数年かかる見込みとなっている。そのため今年度計画されていた鋸南町都市交流施設周辺整備事業における会議をはじめとした各活動が延期となってしまった。また、COVID-19の影響もあり鋸南町民との意見交換会も延期となってしまった。今後は状況が回復し次第、町との協議を重ねた上で鋸南町都市交流施設整備事業を進めていき、今回の災害や疫病の影響を考慮に入れた上で地方都市での交流施設の新しいあり方を計画していくことを目標として活動を行なっていく。

また今年度から鋸南町報紙「町報きよなん」へ本プロジェクトの活動を掲載することとなった。



fig.3 作成した提案



fig.4 作成した提案



fig.5 被災した保田小学校体育館



fig.6 被災した鋸南幼稚園

2-2. 島根県雲南市 中山間地域での地域と大学生等による交流ゾーン形成事業

島根県雲南市と早稲田大学古谷誠章研究室の連携、2019年度遊休施設を活用した交流促進ゾーンの形成を目的とし、雲南市の様々な場所で遊休施設の調査・地元学生、住民とのワークショップ・提案を行う。昨年度に引き続き木次町でのさくら祭りにおける空間形成の提案を行った。高校生と共に講演会会場の空間設計を行った。また、木次町の空き家や蔵の利活用提案を行った。実際に地元の人との意見交換会なども行い提案の実現性を高めた。さらに大東町では、久野小学校の利活用提案の基本構想部分における提案を行った。その他、他地域においても、祭りやワークショップなどに参加することで、中山間地域での交流を図る。

2-2-1. さくら祭り 2018

2019年のさくらまつりを盛り上げるため講演会会場の設営を行った。また、今までの活動で作成に取り組んだ建具を活用するなど蓄積を活用した取り組みも行った。毎年設置しているロングテーブルの設営にも携わった。



fig.1 講演会の様子

2-2-2. 木次町の空き家・蔵の活用提案の作成

木次駅近くの商店街に隣接する空き家が集中する地帯の改修計画・蔵の改修デザイン提案を行った。まず初めに、木次の商店街が持つ魅力やリソースを活かした、リサーチを行い、地元の人々と意見交換会を行い、より提案の実現性を高めることに注力した。次年度は、実際に改修に関わっていくことを目標とする。

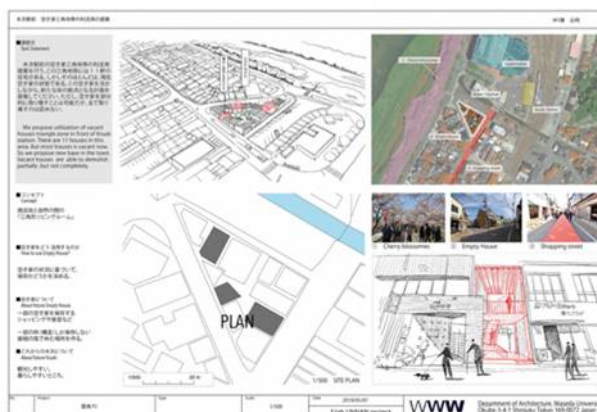


fig.2 空き家活用提案



fig.3 蔵活用提案

2-2-3. 大東町久野小学校の活用提案・ワークショップの実施

廃校となった久野小学校の利活用計画を行うこととなった。実際に使われている校舎を活かしながら、簡易宿泊施設へと転用する計画である。それにあたり、隣接する久野交流センターとの関係性の提案や、地元の方とのワークショップを通じて提案の現実性を高めた。



fig.4 久野小学校の活用方針ワークショップの様子

2-2-4. その他活動

- ・大東町、黒崎さんと共に ICT を活用した地元の学生との交流
- ・入間花田植え・木次夏祭り・大東夏祭り

2-3. 奈良県産材を活かしたビジネスデザインの提案

吉野材の魅力を最大限に活かした新しいブランドづくりを推進し、県の林業・木材産業の振興を図ることを目的とし、吉野材の魅力を最大限に引き出す木質空間としての新しい用途の調査及びデザイン開発を行う。今年度は、奈良県吉野町に建つ島田商店の元酒蔵（以下島田蔵）を地域の多目的スペースとして内装を改修する。また、奈良県内での木材活用として吉野以外の地域の林業や奈良県産材の視察を行うことで、吉野材だけではなく奈良県全体で抱えている林業・木材の知見を得る。

2-3-1. 島田蔵の内装改修提案

奈良県吉野町上市地区、旧島田蔵の内装改修計画においてデザイン提案・学生のセルフビルドによる施工の機会を頂いたことから、「地域住民の思いをどのようにして木材で表現し、上市地区はじめ吉野町の方々の生活や、訪れる人の体験がより良くなるような居場所を計画するか」を学生間で議論した。さらに工務店はじめ様々な方にご協力いただき、施工方法、予算や施工期間の調整も行い、木質空間の提案・製作を行った。地域住民や訪れる人の居場所となり、かつコンパクトな面積の酒蔵で様々な用途に対応するフレキシブルな空間とするため、棚とベンチを壁際に寄せた構成とした。それらは入り口を入るとすぐに吉野材の存在感を感じることもできるよう105角や120角の構造材で構成されたフレームを基本としている。そのフレームを取り巻くように製材所で積み重ねられた角材や、吉野の遠景の山々といった吉野の風景をモチーフに棚やベンチをデザインすることで、地域の方々に愛着を持ってもらえるような空間となった。（以下fig1～4は竣工写真）



fig1. 入り口から見た棚全体



fig2. ベンチ全体



fig3. 棚



fig4. 棚



fig5. 製作の様子



fig6. 製作の様子

2-3-2. 上北山村での天然林活用提案

上北山村の天然林や林業、木材を視察し、吉野地方以外の奈良県産材についての知見を深めることで、吉野材の位置づけの再認識ができた。これにより吉野材、ひいては奈良県産材を活用したデザイン提案の可能性を研究する足掛かりとなった。今年度は上北山村の視察に加えて、村の住民や小中学生と村の記念植樹のイベントに参加することで、より上北山村との交流を深めることができた。また、2020年5月にオープン予定の上北山村ホテル改装に伴い、川を眺めながらテントを張ることのできるデッキ状のツリーハウスの提案を行った。



fig7. 視察の様子



fig8. 記念植樹の様子

2-3-3. 県産材の商品化に向けた提案・試作品作成

2020年3月16日から2週間程度、近鉄線近鉄奈良～神戸三宮の区間において吉野杉シートを用いた交通広告を掲出した。電車の利用客に吉野杉の木目や色合いの美しさ、香りの良さを感じられるような広告となった。また、広告右上に記載の「ゆっくり、まっすぐ。知ってほしい、奈良の木のこと」というキャッチコピーの提案も行った。



fig9. 近鉄線車内



fig10. 近鉄線広告とキャッチコピー

2-4. 岐阜県美濃加茂市 北部地域の交流促進と賑わい創出による地域活性化業務

2017 年度に古谷誠章研究室で再生活用デザインを行なった旧伊深村役場庁舎を拠点として、人口減少が進む伊深地区の地域活性化につながる事業の仕組みづくり・デザインの提案を行う。

2-4-1. 地域活性化に必要な住民意識の向上

広域まちづくりを含めた地域活性化を促進するためには、住民自身が地域の魅力に自覚的になることが必要だと考え、地元住民への伊深地区のオーラルヒストリーを行なった。また、建築学科の学生として「模型表現」という形でWSを行い成果物が立体的に視認できるような物を構想した。



Fig.1 WS 前のプレゼンテーションの様子



Fig.2 WS の様子



Fig.3 第二回 WS の様子



Fig.4 模型に話したエピソードの旗を刺していく様子

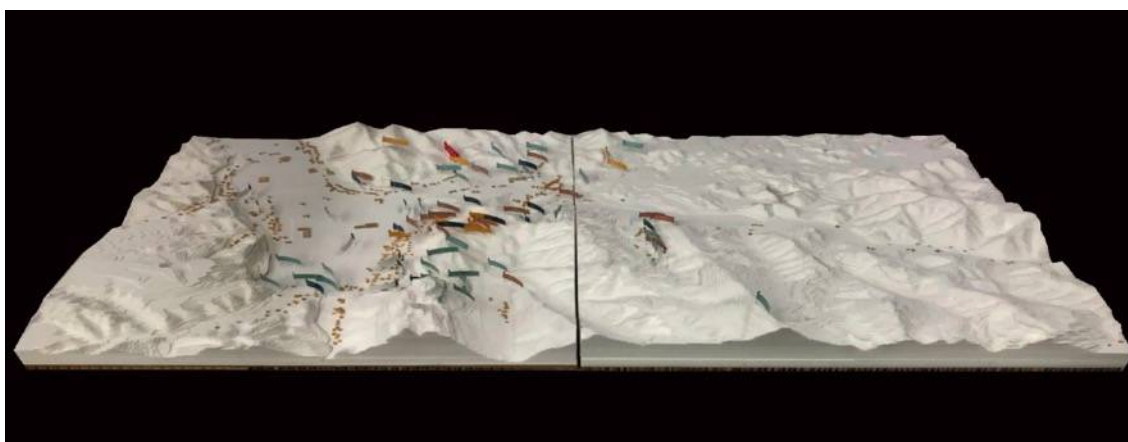


Fig.5 完成模型

2-4-2. 現地の写真収集

模型WSで話に挙げた伊深の場所を一つ一つ訪れて写真を撮影した。これらの写真を模型と連動させてインターネットにて写真とエピソードを見ることができるようにする施策をしている。訪れた人がとった写真をアップロードできるようにすることで伊深地区に訪れた人の記憶が蓄積していくことを目的としている。本計画は2019年度では完成しなかったため2020年度に引き継ぐ。



Fig.6 高倉神社



Fig.7 住民たちが子供の頃遊んだ「ちんしょう」

2-4-3. 地域イベントでの展示

伊深地区で毎年行われる「お月見会」にて先のWSにて制作した模型の展示を行なった。展示会場では即興でWSを行い地元住民との意見交換を行いながら多くのエピソードを得ることができた。加えて地域の郷土料理制作WSに参加することで食と地域のつながりを学んだ。



Fig.8 即興WSの様子



Fig.9 郷土料理研修会の様子

2-4-4. あいあいバス停セルフビルド計画

昨年度に引き続き旧伊深村役場庁舎の正面にあるあいあいバス停のセルフビルド計画を行なった。本年度は地面との取合いディテールや可搬性を考慮した。しかし結果としては建築申請の必要性から実現には至らなかった。そのため来年度に業務を引き継ぐこととする。

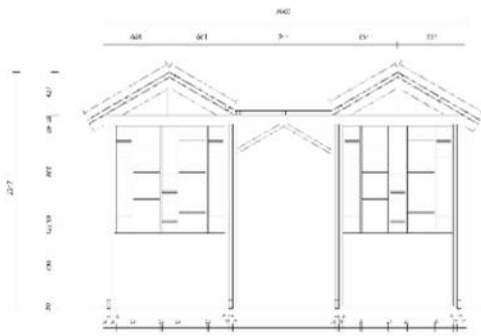


Fig. 10 バス停立面図

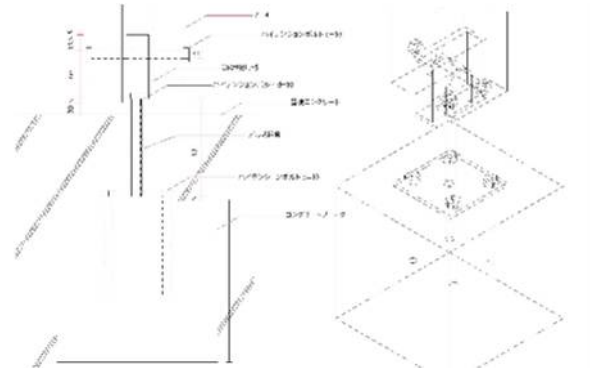


Fig. 11 地面と構造の接合ディテール

3. 共同研究者

斎藤 信吾（創造理工学部・講師）

山田 浩史（創造理工学部・助手）

王 薪鵬（創造理工学部・助手）

宮嶋 春風（創造理工学部・助手）

根本 友樹（創造理工学部・嘱託研究員）

4. 研究業績

特になし

5. 研究活動の課題と展望

5-1. 新潟県上越市 月影小学校 / 千葉県鋸南町 保田小学校における廃校リノベーションの研究提案

月影の郷では移住体験ツアーをはじめとした様々なイベントを開催することで都心部との交流を行い複数地域が関わることでできる機会が増えている。一方で地域住民や体験を行いにくる人々に対して月影プロジェクトや大学連携、月影の郷の背景などを知ってもらうことでできる機会が少ないため、プロジェクトが主体とするイベントの開催や月影の郷の改善などを行なっていくことでプロジェクトの周知や地域住民との交流を増加させていくことを展望とする。

鋸南町は昨年の台風 15 号の被害や COVID-19 の影響により鋸南町都市交流施設周辺整備事業の予定の遅れが生じているため、今後は行政との連携をとりながら随時計画を進めていくこととする。また、道の駅保田小学校を核とした都市交流施設と鋸南町に点在する遊休施設をつないでいく仕組みを町民の方々との意見交換を交えつつ考えていくことで、鋸南町の地域的価値を向上させ定住人口の増加を促し持続性のある地域運営を目指した提案活動を行なっていくことを展望とする。

5-2. 島根県雲南市 中山間地域での地域と大学生等による交流ゾーン形成事業

都市再生モデル調査以来、古谷研が雲南市に携わって 12 年目を迎えた。今年度は吉田町、木次町だけではなく、久野地区とのかかわりが生まれ、雲南市の活動範囲を広げることができたのでは

ないかと考えている。さらに、桜まつりの講演会会場の空間デザイン、空き家密集地域における改修提案、久野小学校利活用ワークショップなど、建築スケールには到達していないかもしれないが、街の人と対話する形で古谷研の活動を見てもらうことができた良い機会となったと考えている。加えて、竣工は5年後ということだが、新民谷交流センター計画案であったり、来年度活発に調査が進むかもしれない木次商店街における空き家の改修計画など、建築のスケールで雲南PJメンバーが雲南市に深くかかわっていく足掛かりになる年度になったのではないだろうか。

今後は、新民谷交流センターや木次商店街における空き家の改修計画など、大きなプロジェクトに学生が関わることができると言える。そこで、今までの11年間の活動から見えてきた地域との関係や情報の蓄積をおろそかにせず、それをもとに提案や活動ができるよう尽力していきたい。5-

5-3. 奈良県 吉野材(スギ・ヒノキ)を活かした木質空間デザインの提案

来年度以降も更に吉野材の魅力を活かし、より汎用性や専門性を高めた展示や空間を目指し研究を深めることで、吉野材の魅力や実空間での活用の利点を伝えることができると思う。今年度の活動のように山間部に住む方々との対話を通して一つのものを作り上げることは、地域活性化や、奈良の木を使った魅力的な空間づくりのために、非常に有意義であった。この経験を糧に、地域との関わり合いの中での奈良の木の活用や発信にさらに邁進していきたい。また、本研究では2010年から吉野材をはじめとする奈良県産材に関わってきた。今後はそこで作成した空間提案を整理、アーカイブ化することで、今後の空間提案に活用していきたい。今後も首都圏に重点をおいた活動と、奈良県内におけるPR活動並びに空間提案を同時平行で重ねて行くことで、吉野材を取り巻く環境や吉野材のブランド力の向上、更には林山地の活性化を図り、その利用拡大につなげていきたい。

5-4. 岐阜県美濃加茂市 旧伊深村役場庁舎再生活用基本デザイン策定業務

今年度は、模型を用いたWSによって地域住民、学生の相互で学びを得ることができた。今後も模型とインターネットの連動や、写真のアーカイブという完成を目指してプロジェクトを継続していくことが必要であると思う。本年度で美濃加茂市との契約は終了したが、バス停のセルフビルド、模型ともに2020年度も継続して行なっていく必要がある。